



住宅の身近な街路樹

こども新聞

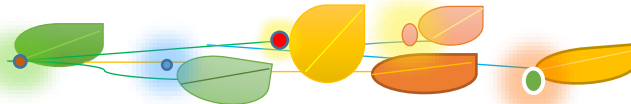
北摂里山愛す会



植物は、私たちの身近にあって、散歩でよく見かける街路樹もその一つで、心をいやしてくれます。

★街路樹とは、市街地の道路に沿って植えられた樹木のこと

日本の街路樹 (2007年現在)



多いのは一番目イチヨウ 57万本、2番目はサクラ 49万本、3番目はケヤキ 48万本

1. 街路樹の重要な役目



1. 二酸化炭素の吸収
2. 景観の向上 (景色や風景)
3. 生活環境 (騒音の低減、日差し)
4. 交通安全 (歩道と車道の区別)
5. 防災 (火事の延焼を防ぐ) など

2. 街路樹が植えられたのはいつの時代

江戸時代以前にケヤキ並木があったそうです。戦乱の時代に武将の戦術成功のお礼にと植えられたケヤキ並木 (街路樹) が始まりだそうです。



ヤマボウシの花

3. 日本で植えられている街路樹

在来種 (日本で古くからある樹) イチヨウは中国原産の外来種・日本には室町時代に入ってきました

落葉樹 イチヨウ・サクラ・ケヤキ・コブシ・カツラ・ヤマボウシ・ナナカマド

常緑樹 サンゴジュ・モッコク・クスノキ・ヤマモモ・クログネモチなど

がいらいしゆ

じせい

外来種 (もともと日本には自生していない植物)

外来種の街路樹はほとんど落葉樹が多い。メタセコイヤは常緑樹です。日本では 200 万年前の絶滅化石があるそうです。中国で発見された木を挿し木や種で増やし日本全国に植えられています。



メタセコイヤ

メタセコイヤ・台湾ンフウ・アメリカフウ・トウカエデ・ナンキンハゼ・スズカケノキ・ユリノキ・ハナミズキ・サルスベリ・ポプラなど

***他にはどんな街路樹があるでしょうか。調べてね!**



トウカエデ

台湾ンフウ

ナンキンハゼ

ポプラ

ナンキンハゼの紅葉

アメリカフウの葉 台湾ンフウの葉

※みなさんがよく知っているサクラのお話

サクラの街路樹のほとんどがソメイヨシノで、オオシマサクラとエドヒガンからできたサクラを挿し木で増やし植えています。全国のサクラの80%がソメイヨシノだそうです。江戸時代に(現在の東京)の染井村で誕生しました。

一本の樹で増やしているので、種ができません。寿命も他のサクラより短く60年位です。戦後に植えたのが寿命を迎え植え替えしている所もあります。



ソメイヨシノ

エドヒガン

ヤマサクラ

オオシマサクラ



ソメイヨシノの並木



カスミサクラ

サクラの中でエドヒガンが一番早く花が咲きソメイヨシノ、ヤマサクラ、オオシマサクラ、カスミサクラの順に咲きます。**ソメイヨシノ、エドヒガン**は花が咲き葉は後からがでます。**ヤマサクラ、オオシマサクラ、カスミサクラ**は花と葉が同時にがでます。他にも色々な種類のサクラがあります。調べてみてね!

サクラの樹には、アリが登っている。見たことがありますか? どうしてでしょうか?
サクラの葉に甘い蜜腺あるからです。

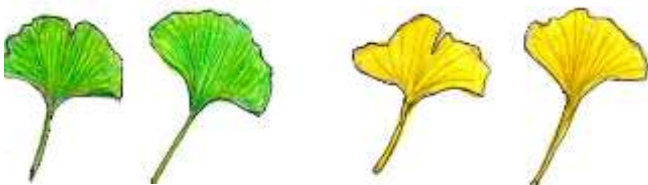


蜜腺

蜜腺は、サクラの種類で位置が変わります。(なめてみるとあまいよ)

※秋に黄葉するイチヨウ (銀杏) の話

春の緑色の葉は秋になると黄色く色づきます。それは、日差しが弱くなり光合成より葉が栄養を作れないためを落葉します。黄色のカロチノイドが残るために黄葉します



緑色の葉

黄色の葉



黄葉したイチヨウの樹



銀杏の実

銀杏の種

10～11月には銀杏（イチョウの実）が拾えます。落ちたばかりの実には悪臭が強烈で、汁が付くとかぶれます。果肉を取り除き焼き銀杏や、茶わん蒸しに入れて食べられます。たくさん食べると中毒をおこします。気を付けましょう。堅い殻を取り除いて食べます。近くにイチョウの樹があるかな？観察してね。

※葉の色が変わるケヤキのお話

ケヤキの樹は、枝を広げると扇形でとても姿が美しい。
紅葉は植えた場所で、色々に葉の色が変わるのでしょうか？
緑、黄色、橙色、赤と変わります。街路樹はせん定されるので扇形のケヤキをあまり見ることができないかも知れません。



ケヤキ並木



ケヤキの姿



ケヤキの紅葉



ヒヨドシチョウ 表



裏

☆ケヤキの葉を食草にしているのはヒヨドシチョウやアカタテハの幼虫です。成虫になると花の蜜を吸います。



野間の大ケヤキ



虫生のケヤキ



ケヤキの紅葉



ケヤキ並木の紅葉

※常緑のクスノキのお話

クスノキは寿命が長く大きくなるため各地の神社や公園に植えられています。
明治神宮の森には、全国から約9,000本が献木されたそうです。
クスノキは、火を防げるため公園や街路に植えられています。



クスノキ並木



クスノキの葉



クスノキの花



アオスジアゲハ

アオスジアゲハの幼虫はクスノキの葉を食べます。

日本最大のクスノキは、鹿児島県蒲生町の幹回り24.2mの高さ30mの「蒲生の大クス」。福岡県新宮市の「立花山クスノキ原始林は国の特別天然記念物に指定されています。

クスノキの枝や葉はいい香りがします。樟脳の香りです。この匂いを虫がとて嫌うため防虫材として使用していました。以前は、クスノキの中には必ずはいっていました。今は、化学合成のナフタリンが多く使用されています。

★現在日本で樟脳を作っているのは、福岡と宮崎の2か所と2か所から技術共有された屋久島の1か所です。

★★ クスノキを見かけたら、匂いをかいでみてね ★★

※街路樹はどうして外来種が多いのでしょうか？

※外来種は公害や枝切りなどに強いのでしょうか？



トウネズミモチの実 外来生物法で要注意外来生物に指定された

★★★日本自生の樹で、公害や枝切り（せん定）に強い樹★★★



サンゴジュ



モッコク



クスノキ



ヤマモモ



クロガネモチ

上写真の5種類の樹は、常緑樹で特に公害や枝切りに強い。サンゴジュは葉が分厚く多く水分を含んでいるため、防火樹とよばれています。

現在の街路樹の現状 ・ ・ 街路樹は夏の暑い日には日影を提供してくれ、また空気を綺麗にして新緑や紅葉で季節感を与えてくれます。しかし戦後に植えた樹が寿命を迎え大木化し、枝切りに、市や県の管理のお金が沢山かかります。また台風などの強風で倒木の撤去、根が舗装を持ち上げるので修復費用、また樹の若返りの費用もかかります。これからの街路樹の選定では、外来種ではなく、地域に自生している樹や、枝切りが少なく済む樹を選んで植えて欲しいとおもいます。

外来種のナンキンハゼ、以前に植えられたトウネズミモチなどは、繁殖力が強く、地域の山に入り込んでいます。そのままだと将来ナンキンハゼやトウネズミモチの山ができるかもしれません。

この子供新聞を読んでいただいて、少しでも樹木に関心を持っていただけたら、本当に嬉しいです。